

建交労フェスタin北海道

全国から358人(道内115人)が参加

強く大きな組合めざし交流深めよう

6月15日～17日に開催される「建交労フェスタ in 北海道」(第7回全国学習交流集会)には全国から358人が参加します。これまでのフェスタで最大の参加人数となりました。このうち道内の参加者は13支部と北海道鉄道本部の115人です。全国の仲間を迎え入れる現地実行委員会はいまだに4回の会議を開いて、新千歳空港での出迎え、受付、バスへの誘導・案内、オプションツアーの添乗などの役割分担を決め、特別ルールでおこなう2日目のパークゴルフ大会では北海道鉄道本部の仲間が競技委員として協力してくれることになっています。全国の仲間とともに、業種や世代を超えて交流を深め、強く大きな建交労をつくる跳躍台として成功させましょう。

教育文化会館付近の駐車場の手配を希望する支部は道本部にお知らせください

トンネルじん肺根絶第5陣訴訟 札幌地裁の和解は7月17日に

5月29日に「トンネルじん肺根絶第5陣北海道訴訟」の第9回口頭弁論が札幌地裁で開かれました。3月の口頭弁論では、この日の和解成立を強く求めていましたが裁判所の作業が遅れたため、あらためて和解期日を7月17日としました。なお、和解成立を目前にしながら今年3月28日に亡くなった原告の高倉さんについては遺族補償(じん肺死)の申請中のため分離して和解することになりました。

JR北海道「安全に関する労使合同会議」

5月28日にJR北海道の「第18回安全に関する労使合同会議」が開かれ、建交労北海道鉄道本部から竹田委員長と最上書記長が出席しました。今回の議題は、2015年12月に函館線旭川の嵐山トンネルで発生した出火事象を受けて、緊急に漏水対策と剥落対策を実施し調査委員会を設けて出火原因と再発防止対策を検討した報告と、高架橋などの耐震補強の進捗についてでした。トンネルでの出火原因は推定されるものの、発生したメカニズムを特定することはできず、対策として漏水防止工を不燃性のものに張り替え、トンネル壁面の補強とともにモルタル片の剥落防止ネット設置の施工も進めていることが報告されました。高架橋の耐震補強については、古い耐震基準により建設されたものもあり、計画的に耐震診断を実施し補強工事を進めていると報告されました。会社からの報告を聞いて、竹田委員長は「国鉄時代から引き継いだ老朽構造物の補強工事費も膨らむことが予想され、北海道民が利用する公共鉄道が安全第一に運行するには、国鉄の分割民営化を進めた国の責任の下に特別な支援をおこなう必要性を強く受け止めるものだった」と話しています。